

性の多様性と日本語教育: 包摂的・肯定的な学習環境を考える  
Diversity in Gender & Sexuality and Japanese Language Education: Towards  
Inclusive and Affirming Learning Environments

2024年6月29日 (土)  
愛知県立大学

Jotaro Arimori  
有森丈太郎  
University of Toronto

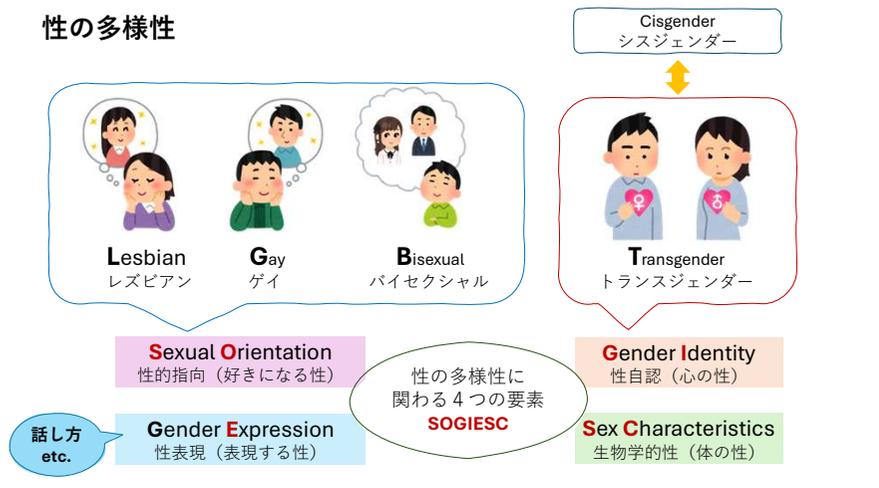
1

### 性の多様性と日本語教育: 包摂的・肯定的な学習環境を考える

- 性の多様性
- インクルーシブ教育
- 性の多様性を巡る動向
- 学びのバリアフリー化
  - ・ 排除の要因
  - ・ 教材の問題点
  - ・ ジェンダー化された日本語の扱い
- 包摂的・肯定的な学習環境に向けて

2

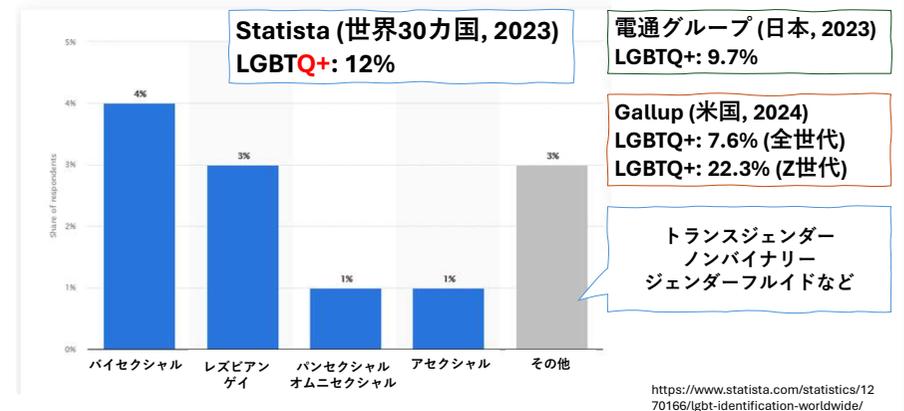
### 性の多様性



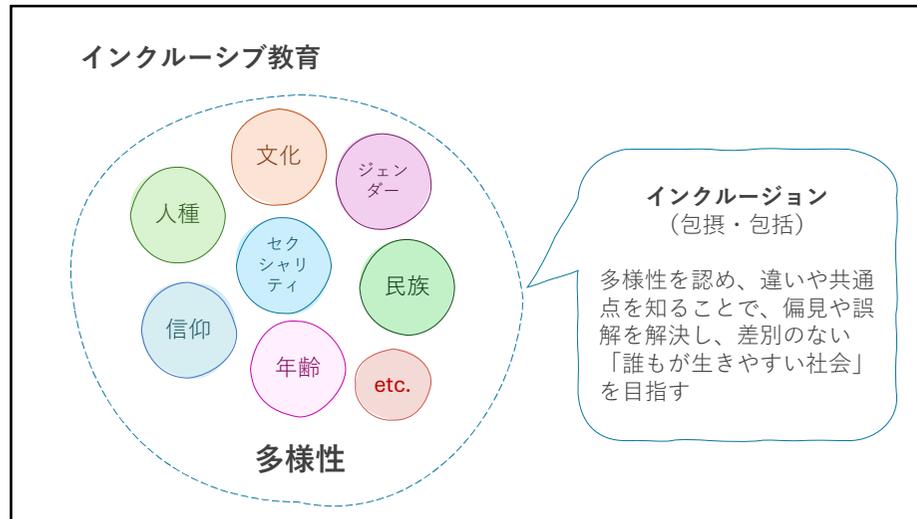
3

### 性の多様性

#### Distribution of LGBT+ identification worldwide in 2023



4



5

### インクルーシブ教育

- 定義**  
個々の背景や特性を理由に学びの場から排除されたりせず、だれもが質の高い教育を受けられる教育実践
- 目的**  
人種や経済状態、社会階級、民族、言語、信仰、**ジェンダー、性的指向**、そして能力の多様性に対する否定的な態度や対応の欠如から生まれる排除をなくすこと。 UNESCO (2009) "Policy Guidelines on Inclusion in Education"
- 合理的配慮**  
排除をなくすための変更・調整

⇒ **学びのバリアフリー化**  
背景や特性に関わらず参加できる学習環境

6

### 性の多様性を巡る動向

|  |   |
|--|---|
| <p><b>社会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ プライドイベントの開催 (1994~)</li> <li>▪ パートナーシップ制度 (2015~)</li> <li>▪ 自治体の啓発活動</li> <li>▪ ドラマ等のメディアでの可視化</li> <li>▪ LGBT理解増進法施行 (2023)</li> </ul> | <p><b>教育</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 文部科学省「性的マイノリティに関する施策」<br/><a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/jinken/sankosiryo/1415166_00004.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/jinken/sankosiryo/1415166_00004.htm</a> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 児童・生徒への対応指針</li> <li>• 教職員向けの研修・理解啓発</li> </ul> </li> <li>▪ 大学等での独自のガイドライン作成</li> <li>▪ <b>留学生の受け入れ・対応</b><br/>2019年度国立大学法人留学生指導担当者連絡協議会「LGBTQ学生支援：国境を越えた受け入れ環境整備の課題」</li> </ul> |
|--|---|

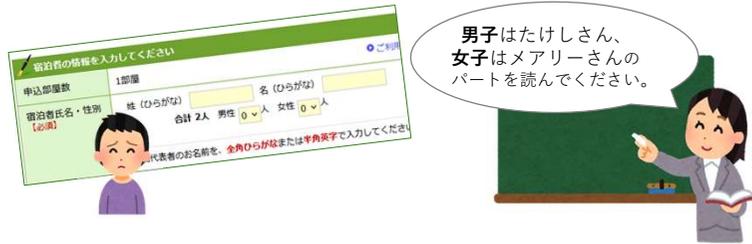
7

### 性の多様性を巡る動向

|  |   |
|--|---|
| <p><b>日本語教育</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ INGS-J <a href="https://ingsjapanese.wordpress.com/">https://ingsjapanese.wordpress.com/</a><br/>International Network of Gender, Sexuality in Japanese Language Education (日本語教育におけるジェンダー・セクシュアリティ国際ネットワーク)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 登録日本語教員 (2024)</li> <li>▪ 日本語教育能力検定試験 (2022年改訂) <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 養成課程の内容・出題範囲<br/>『日本語教育人材の在り方について (報告) 改訂版』(文化庁 2019)「<b>必須の教育内容50項目</b>」に準ずる</li> <li>▶ 「<b>必須の教育内容50項目</b>」には<b>インクルーシブ教育や性の多様性に関する項目が含まれていない。</b></li> </ul> </li> </ul> |
|--|---|

8

## 学びのバリアフリー化：排除の要因



### 性別二元論・性別二元制 Gender Binary

- ▶ 人は男女どちらかの性別に属しているという信念・社会制度

9

## 学びのバリアフリー化：排除の要因



### 異性愛規範 Heteronormativity

- ▶ 性別二元制を前提に、異性間の恋愛や性的関係のみが正常で自然とする社会規範

10

## 教材の問題点

『初級日本語 げんき [第3版] 教師用ガイド』(2020)

### 改訂の方針4：多様性の重視と表現への配慮

メアリーとたけしをはじめ、これまで登場したキャラクター以外にも、会話や練習に出てくるキャラクターにより多様性を持たせた。また、ジェンダーやセクシュアリティに関してもステレオタイプな描写や表現にならないよう配慮した。

11

## 教材の問題点：改善のポイント

多様性の観点から批判的に教材を分析する。

ジェンダーやセクシュアリティに関わらず参加しやすい活動を考える。

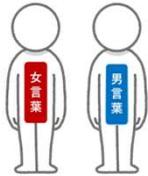
他の教員と協働・共有する。

12

## ジェンダー化された日本語の扱い (中村 2007)

### 本質主義の考え方

言葉遣いは性別に応じて備わっている属性の一つである。



▶ 女だから「女言葉」を話す

### 構築主義の考え方

言葉遣いは言語資源の一つであり、アイデンティティを作り上げるために誰もが使えるリソースである。



▶ 「女言葉」を使うことで女性的なアイデンティティを作り上げる

13

## ジェンダー化された日本語の扱い

『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』(2000)

日本語教育では初級段階でも会話教材などに終助詞が出現します。女性専用の形式を男性が用いると特に不自然なので、学習者に注意を喚起する必要があります。

14

## ジェンダー化された日本語の扱い

『コンテンツとマルチメディアで学ぶ日本語上級へのとびら』(2009)

第2課「日本語のスピーチスタイル」

特にくださった話し方では、男女の話し方に違いが見られます。<中略>友達や恋人や家族と話す時、男性は自分のことを「僕」とか「俺」と言い、女性はたいてい「私」を使います。最近男女の差が小さくなって、上の例のように、文末に「わ」「わよ」を使う女性や、「ぜ」「ぞ」を使う男性は少なくなっていますが、でも、女性が「俺も腹へった」と言ったり、男性が「いやよ!」と言ったら、びっくりされてしまいます。話し方の差が小さくなくても、使わない方がいい表現もあるということを知っておってください。

15

## ジェンダー化された日本語の扱い

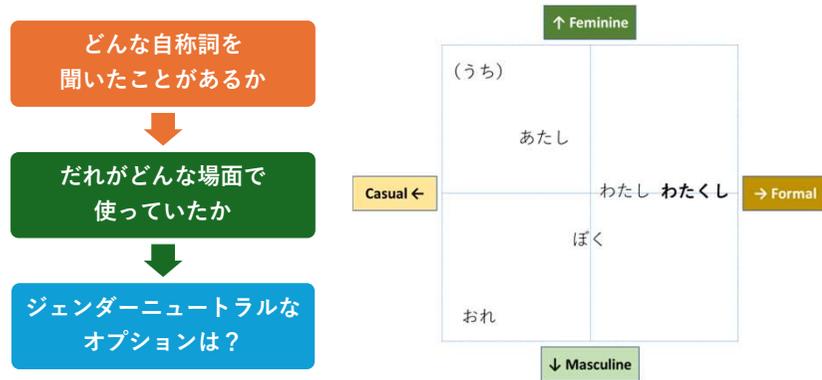
### <学習者の声>

日本語の教師や先輩に日本語を直されたことは何度もある。彼らは、私の性別に対する彼らの認識に基づいて、私の言葉の使用が不適切であり、周りの人にとって、洗練されていないように聞こえると言われたことを覚えている。それは、彼らが私を男性と認識すれば、同じ言葉遣いをして、指摘されずに済んだことを意味している。束縛されるような思いだった。「なぜ自分に忠実な表現(を)してはいけないのだろう」と考えさせられた。(ショールウェシェレーニ 2019)

▶ (日本語教育の現場が) 非シスジェンダー学習者にとって、自己の隠し方を訓練する場、シスジェンダー中心主義的な社会に参加するための下準備をする場になってしまう (ショールウェシェレーニ 2019)

16

## ジェンダー化された日本語の扱い



17

## 包摂的・肯定的な学習環境に向けて

学習者のクィアなアイデンティティ管理に影響する対人的要因 (Moore 2019)

顕著な指標  
Salient indicators

相手の年齢・性別・信仰・出身地など

内部の証拠  
Insider evidence

クィアな情報に接した時の表情  
クィアな事柄に関する言葉選び  
クィアなアイデンティティを示した時の反応

明示的な声明  
Explicit statements

教師による性の多様性に肯定的な発信

18

## 包摂的・肯定的な学習環境に向けて



19

## 包摂的・肯定的な学習環境に向けて

## 留意点

- すべてのクィアの学習者が自身のアイデンティティを教室内で共有することを望んでいるとは限らない (ムーア 2023)
- 同性愛差別的な学習者の意識改革を迫ったりクィアの尊厳と権利についてディベートをしたり、意見を強制することは避ける (ムーア 2023)
- 文化的価値観、宗教的信条から多様な性のあり方を受け入れがたい学習者もいる。教師がそのような学習者を断罪するような態度を取ると、今度はかれらを周辺化させる (有森 2023)

20

## 参考文献

- ・有森丈太郎 (2023) 「日本語の『男女差』、どう扱えばいい?—多様な性とインクルーシブな学習環境を考える—」『ケースで考えるだれも教えてくれない日本語教育の現場』ココ出版
- ・ムーア, アシュリー・ラッセル (2023) 「わたしたちの教室はどれほど異性愛規範的か」『英語教育』72(10), 44-45
- ・庵功雄・高梨信乃・中西久美子・山田敏弘 (2000) 『初球を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク, 329
- ・岡まゆみ (他) (2009) 『コンテンツとマルチメディアで学ぶ日本語上級へのとびら』くろしお出版, 28-29
- ・ショールウェジェレーニ・マテ (2019) 「日本語教育におけるシスジェンダー中心主義—学習者の経験を中心に—」修士論文
- ・中村桃子 (2007) 『〈性〉と日本語』NHKブックス
- ・坂野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子 (2011) 『初級日本語げんきII 第2版』ジャパントイムズ
- ・坂野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子 (2020) 『初級日本語げんきII 第3版』ジャパントイムズ
- ・Arimori, J. (2020). Toward More Inclusive Japanese Language Education: Incorporating an Awareness of Gender and Sexual Diversity among Students. *Japanese Language and Literature*, 54, 2, 359-371
- ・Journal of the American Association of Teachers of Japanese
- ・jll.pitt.edu | Vol. 54 | Number 2 |
- ・Moore, A. R. (2019). Interpersonal factors affecting queer second or foreign language learners' identity management in class. *The Modern Language Journal*, 103, 2, 428 - 442
- ・UNESCO (2009). *Policy guidelines on inclusion in education*, <https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000177849>
- ・Yoshida, M. (2023). Representations of gender and sexual orientation over three editions of a Japanese language learning textbook series. *Gender and Language*, 17, 198 - 221

21

## ディスカッション

### トピック 1

留学生から学校や地域におけるLGBTQ+のための取り組みや団体について知りたいと言われました。知っていることをグループで共有してください。わからなければスマホなどで調べても構いません。



【参考】INGS-J 2024 Scenario based Workshop - Inclusive and Affirmative Language Learning Environment

### トピック 2

授業で家族の呼称を取り上げました。おじ・おばの關係に当たる人がノンバイナリーで、その人について話す時に何と呼んだらいいか質問されました。どのような対応が考えられますか。

▶ **ノンバイナリー**  
男性・女性どちらにも当てはまらない、または当てはめられることに違和感を覚える人



22

## ディスカッション

### トピック 3

初級コースの作文を採点しています。英語が母語の女子学生が「週末は彼女と買い物に行きました」と書いていました。英語では女友達のことをgirlfriendと言うこともあるので、本当はそう言いたかったのかもしれませんが。どのような対応が考えられますか。



23



参加者特別割引  
2,640円⇒2,000円  
(国内送料無料)  
7月3日迄



### 目次

1. 日本語の「男女差」、どう扱えばいい—多様な性とインクルーシブな学習環境を考える
2. 日本語じゃないと不公平?—媒介語と公平性を考える
3. 宗教や政治はNGの話題?—教室の話題を考える
4. 「○○では…」 「○○人は…」—文化の教え方を考える
5. 「花マル」ってあり?—言語教育とパターンリズムを考える
6. 先生の言うとおりに教えました!—ポストメソッドを考える
7. 何をするかは自由と言われても…—地域の日本語教室における活動の可能性を考える
8. あの学生は“不真面目”なのか—留学生の社会的背景を考える
9. 誰のための地域日本語教室?—多文化共生の場としての地域日本語教室を考える
10. 学習者を増やせと言われるけれど…—言語教育と経済の関係を考える
11. いったい誰に相談すればいいの?—日本語教師の同僚性を考える
12. 私が我慢すればいいの?—非母語話者教師との協働を考える
13. 最近マンネリ化しているかも…—教師の学びを考える
14. やっぱりあきらめたほうがいい?—日本語教師の労働環境とキャリア形成を考える

24